

空襲の記憶文化

—ドイツと日本、「想起」と「忘却」の比較を通じて—

空襲は20世紀に生み出された新たな戦争手段であり、二度の世界大戦をはじめとする様々な戦争において多数の死者を出し、現在も実行されている。とくに第二次世界大戦では、ドイツと日本は空爆を遂行した国であると同時に、多大な被害も被った。本講演では、ドイツと日本の空襲記憶について記念碑や追悼式を紹介しつつ比較する。そして「想起」と「忘却」をキーワードとして、両国の戦後における過去との向き合い方の共通点・相違点を明らかにしたい。また、歴史的な観点だけではなく、体験者の数が減少している21世紀における空襲記憶の継承の未来についても考えてみたい。



ヨーロッパ文化総合研究所公開講演会

講師紹介

やなぎはら のぶひろ
東京女子大学 現代教養学部 准教授 **柳原 伸洋**

1977年、京都府生まれ。北海道大学文学部卒、東京大学大学院およびポツダム大学・ハレ大学への留学などを経て、現職(専門はドイツ現代史、空襲研究)。

2019年度はアウクスブルク大学 客員研究員。

著書に『教養のドイツ現代史』(共編著、ミネルヴァ書房)、
『日本人が知りたいドイツ人の当たり前』(共著、三修社)など。



東北学院大学 土樋キャンパス案内図

2019年

10月5日(土) 15:30 ~ 17:00

東北学院大学土樋キャンパス 8号館5階 押川記念ホール

問い合わせ先: 東北学院大学ヨーロッパ文化総合研究所

TEL: 022-264-6379 E-mail: europe@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

主催: 東北学院大学 ヨーロッパ文化総合研究所

協賛: 東北学院大学研究ブランディング事業「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」